生成 AI を活用したアカデミックライティングの添削と評価

—大学院生を対象として—

林柏睿 (りん　はくえい)

生成 AI を教育現場に導入すべきか否か、そしてどのように導入すれば最も適切であるかというような研究が近年において活発に行われている。このような現象から、これからの教育においてどのように生成 AI を扱えばいいかを検討することが重要であると考えられる。そして、それはアカデミックライティングの教育においても同じことが言えるのであろう。従来のアカデミックライティングの教育では、学生が提出した文章を教師が添削と評価を行い、学生は教師のフィードバックにしたがって文章をより良いものに仕上げる、というようなプロセスを何回も繰り返すものであった。しかし、それよりもさらに効率的な教育方法があるのではないか。そこに生成 AI を介入させ、アカデミックライティングの教育をサポートできるのではないかという本研究の問題意識が形成された。

本研究における日本語を専門とする大学院生の生成 AI 使用状況調査の結果によると、日本語を専門とする大学院生の生成 AI 使用傾向を左右するのは、学生の日本語に関する背景ではなく、生成 AI に対する理解と感想に依拠していることが明らかになっている。そこで本研究は ChatGPT と Gemini という二つの異なるモデルに学生のレポートの添削と評価を試行させて、そのアウトプットを比較することで両モデルの傾向と類似点、相違点などを考察した。本研究の研究結果から、今後のアカデミックライティング教育において、生成 AI に学生によるレポートの添削をサポートさせる際に適するルーブリックを提案した。そして生成 AI は学生によるレポートの言葉や表現をより学術的なものにブラッシュアップすることをサポートできることも確認された。以上の本研究の研究結果が、今後の日本語教育のアカデミックライティングの教育に刺激を与えることが期待される。